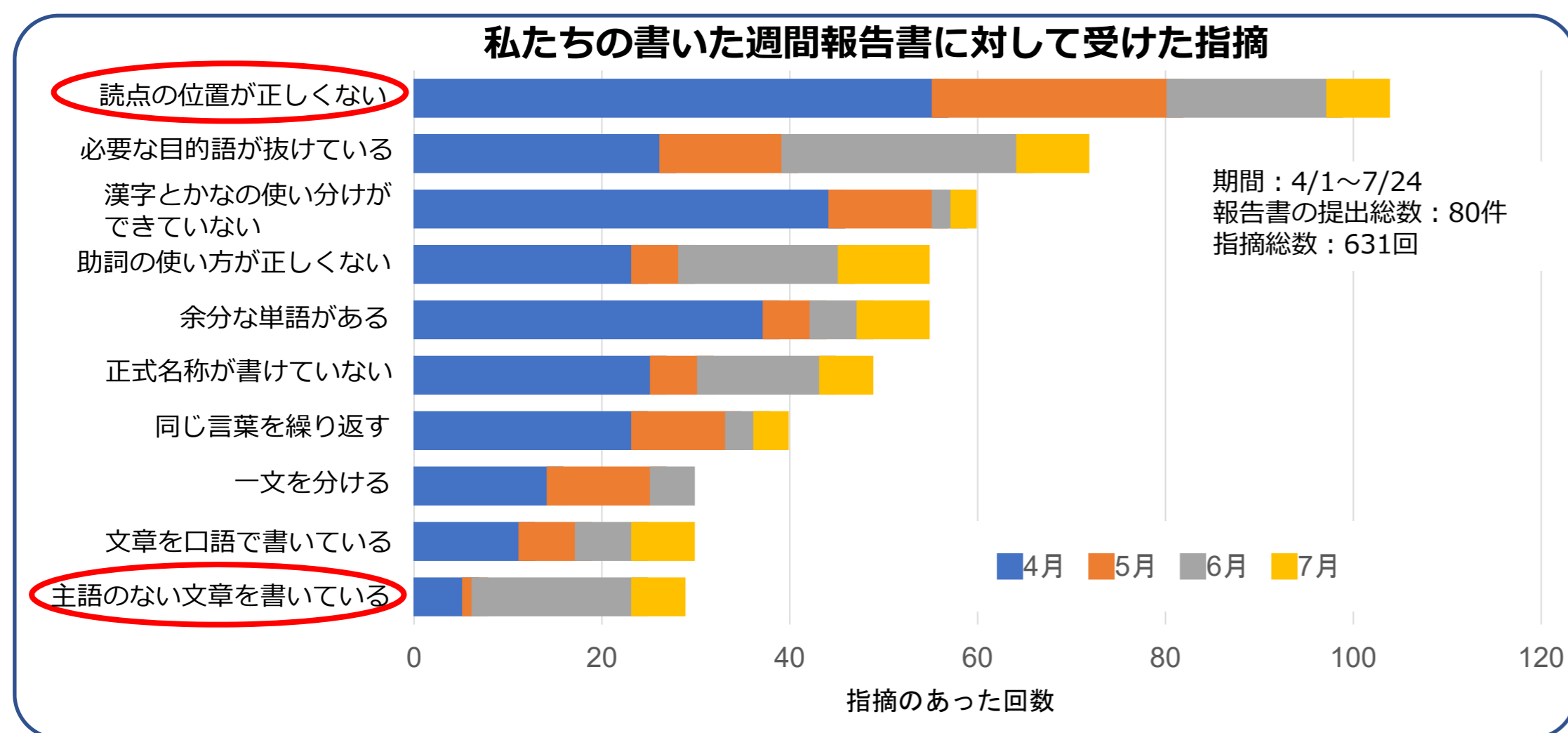


# 新人社員向けTW指導から得られた私たちの意識の変容に関する考察

片倉壮羅、飯塚颯人、植村陽平、吉田春香  
株式会社情報システムエンジニアリング

新人育成にて、私たちの書いた文章にどのような指摘があり、私たちが受けた指導でどのように変化したのかを示す。4月から7月までに私たちが受けた指摘をもとに意識の変容について考察し、育成を受けた側の視点からTW（テクニカルライティング）指導の提言をする。

## 1. 育成期間中に私たちが受けた指摘



私たちは新人育成にて、TC（テクニカルコミュニケーション）講座や、工学基礎の講座を受けた。TW指導、文章表現に関する学習、週間報告書の添削により、私たちの書く文章は読み手が理解しやすい文章へと改善されていった。

左図は私たちの週間報告書で指摘された項目を集計し、指摘の多かった10項目をグラフにした。「読点の打ち方」と、「主語なし文」を取り上げて考察することとした。

主語なし文に関しては、このような文章を書いていたことを6月の工学基礎講座で指摘された。以後の週間報告書の添削結果で顕在化した。以前にも同様の指摘があり、意識することが特に重要であると考え、取り上げることにした。

この2項目について、私たちの意識の変容に着目して考察する。

## 2. 指摘から得られた、意識の変容に関する考察

### 変容の事例1：読点の打ち方

#### 指摘内容

「読点が抜けている、読点の位置が違う、読点が過剰に打たれている」  
「書き手が意図したことを正確に伝えられない」

#### 意識の変容

変容前	読点を息継ぎの感覚で打ったり、文章が長過ぎるときに形式的に打ったりするものと認識し、読点を打つ基準を重要視していなかった。読点に打ち方があるとは知らなかった。そのため、指導を受けるとは考えてもいなかった。
変容後	読点を打つ目的は、読み手の多重解釈を防ぎ、書き手の意図したことを正確に伝えることだ。目的を理解してから、読点を打つことを意識するようになった。

#### 考察

読点が抜けているという指摘から、私たちは文章に読点が足りないと認識した。読点を増やして対応したところ「文章がぶつ切りになり、読みづらい文章だ」と異なる指摘を受けた。読点をどのような基準で打つのが理解不足のまま文章を書いていた。最初の読点の指摘で十分な理解を得ることができていれば、読点の理解がより早くできたと推察する。

学生時代にレポートや論文の書き方の指導で「レポートを読んで相手が実験を再現できるようにわかりやすく書く」という指導があった。この指導と読点を打つ目的は似ていると気づいた。私たちが学生時代に書いていた文章と共通点があると認識していれば、文章に対しての意識がより早く変容していたと推察する。

### 変容の事例2：主語のない文

#### 指摘内容

「事実と意見を分けて書く」  
「主語が省略されていて、誰が何をしたのかわからない」

#### 意識の変容

変容前	文章を書く際に主語を意識していなかった。自分たちの都合のいいように主語を補完し、主語が読み手に伝わるだろうと考えていた。
変容後	述語に対応する主語をすべて明記し、見直しの際に述語に対する主語が同一のものを省略するという意識に変わった。

#### 考察

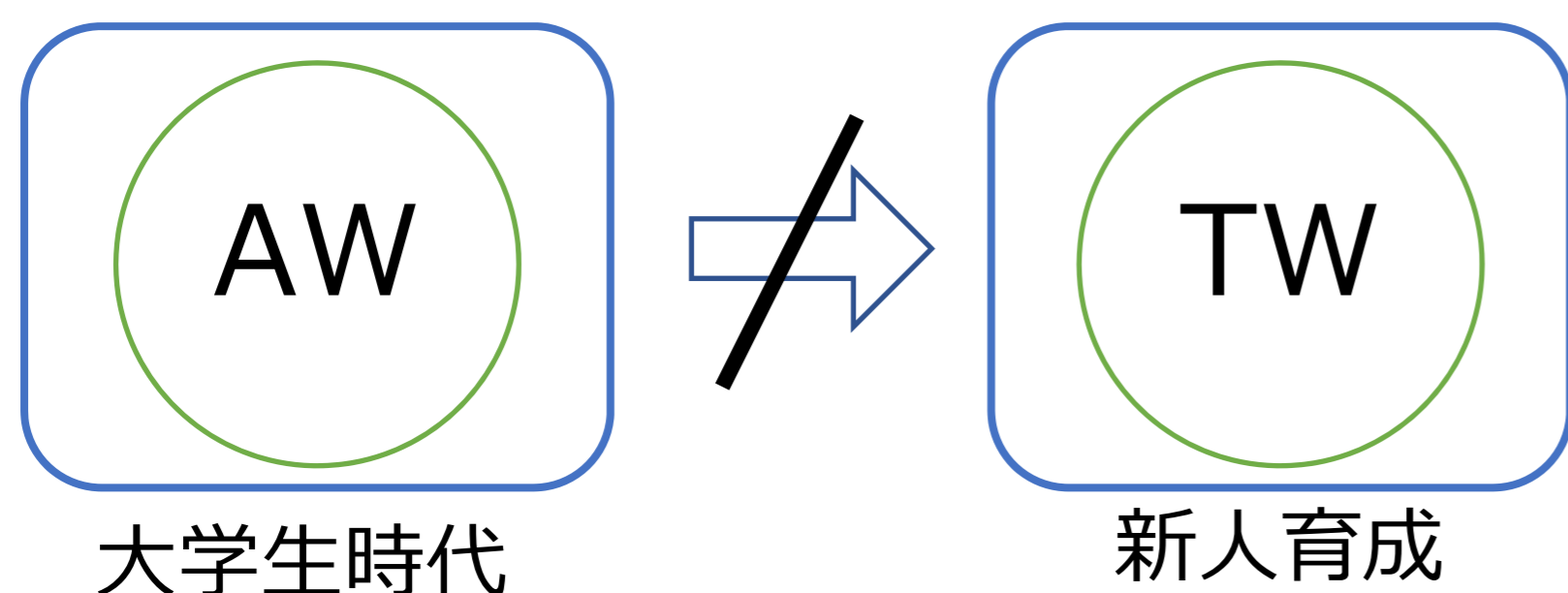
私たちの週間報告書では事実と意見が混在していたため、1つのブロックの中で異なる主語の文を複数書いていた。事実と意見を書き分けるという指摘を受け、別のブロックに分けて書くようになった。事実と意見を項目ごとに分けて書くという、学生時代の論文やレポートでの書き方との共通点があると気づいた。この共通点を認識していれば、主語の抜けをより早く理解できたと推察される。

他の人を主語にした文において、主語を省略していた。論文で書いていた文章は自分の主張が主であり、自分を主語にする文章の意識のまま他の人を主語にした文章を書いていた。自分を主語にすることが多い学生時代の文章と、他の人を主語にすることが多い週間報告書の文章の違いを認識できていなかった。論文と週間報告書の書き方の違いについて認識していれば、主語の抜けがより早く理解できたと推察される。

## 3. 変容の事例の考察に基づく新人社員向けTW指導の提言

アカデミックライティング（AW）を起点に、TWを指導することを提言する。変容事例の考察により、大学で指導されたレポートの記述形式（AW）と工学基礎で指導を受けたTWでは、作成する文章に共通している部分があることが発見でき、意識の変容につながった。TWを新人社員に指導するよりも先に、AWとTWの共通点を説明し、異なる点の指導を行うことでより効率的な育成ができる。

### 私たちが受けた育成



### 私たちの提言

